



第229号 たり前の日常でした。 このような光景を目にすることが当 やかな笑顔が弾けます。函館では、 ています。夏の日差しの中で、さわ 車を待つ大学生の写真が巻頭を飾っ これまでと趣が少し変わって、 電

開催していました。このことを、長月には本部総会・大懇親会を盛大に総会や歓迎会などが行われ始め、六例年であれば、四月から各支部の のが夕陽会です。特に、夕陽讃歌のい間、当たり前のように続けてきた開催していました。このことを、長

防する新しい生活様式が示され、人

の確保は、感染予防のために重要です。このソーシャル・ディスタンス との距離は二メートル(最低一メー あることは十分に理解できますが、 トル)空けることが求められていま

軽に本部事務局にお寄せくださやご要望などがありましたら、	議決とすることをご了解願いま式音長会詩の詩汐をもって「約	こ 阝 ミ ま 義) 義 央 さ っ こ 、 念 が 、 九 月 十 二 日 に 開 催 し ま し た	書面決議を行うべきではありま	ば、全会員に総会議案書を送付	会を中止いたしました。本来で	日に開催を予定していました本事従幸告となりますが、プ月二	事後最言 こうましぶ、 下月二上げます。	とご協力を賜りますようお願い	まいります。会員各位には、ご	のつながりが一層深まるよう努	報交流などによって、支部や会	エイスブック、オンラインによ	部においても、ホームページ	つくる契機にもなると考えます	を促し、令和時代の新しい夕陽	です。そのことが、若手会員の	工夫で活動を重ね続けてほしい	親睦が図られるよう、新たな発	各支部におきましても、会員相	はできるのです。	「語り合う」「つながり合う」	ではなくとも、電話やメールな	止めたくはありません。懇親会	型コロナを理由に、夕陽会の時	」ことは難しいでしょう。しか	らくは、今まで通りに同窓が「	必要であると言われています。	新型コロナの収束には、長い時	危惧しています。	も大きくして	のことが人と人との心理的距離
	国支部長会議の詳細につきまし	国支部長会議の詳細につきまし議決とすることをご了解願います。	国支部長会議の詳細につきまし議決とすることをご了解願いま支部長会議の議決をもって、総が、九月十二日に開催しました	国支部長会議の詳細につきまし議決とすることをご了解願いま支部長会議の議決をもって、総が、九月十二日に開催しました	国支部長会議の詳細につきまし議決とすることをご了解願います部長会議の議決をもって、総が、九月十二日に開催しましたば、全会員に総会議案書を送付	国支部長会議の詳細につきまし、、全会員に総会議衆をすることをご了解願います、九月十二日に開催しましたば、全会員に総会議案書を送付ば、全会員に総会議案書を送付く会を中止いたしました。本来で	国支部長会議の詳細につきまし、 大月十二日に開催しました。 本来で うが、九月十二日に開催しました。 なを中止いたしました。本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で	国支部長会議の詳細に 、 立 部長会議を し に 開 催 を や 止 い た し ま 会 に に 総 会 長 会 議 次 と す る こ と を 行 う べ き 歳 た し ま た に う べ き 読 た に う べ き 読 た に し に に に に に に に に に に に に に	国支部長会議の詳細につきまし 書面決議を行うべきではありま が、九月十二日に開催しました。本来で 日に開催を予定していました。本来で 日に開催を予定していました。本来で 上げます。	国支部長会議の詳細につきましまいります。会員各位には、ごまいります。 して開催を予定していました。 本来で たの、 た 月 十 二 日 に 開催 を 予 定 し て い ま し ま し た の 本 来 で は あ り ま す が 、 九 月 十 二 日 に 開催 を 予 定 し て い ま し た の 本 来 で は あ り ま す が 、 六 月 二 に に い ま し た 。 本 来 で は あ り ま す が 、 六 に 、 れ に 、 れ に の に に に に に に の に の に の た の 、 た の 、 た の た の て い ま し た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た し た の の の の の て の の の の の の の の の の の の の	国支部長会議の詳細につきまし 国支部長会議の詳細につきまし たいります。 を中止いたしました。本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で したしました。本来で したしました。本来で のつながりが一層深まるよう努 のつながりが一層深まるよう努	国支部長会議の詳細につきまし 国支部長会議の詳細につきまし たいります。 生げます。 上げます。 上げます。 上げます。 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で しました。 本来で しました。 本来で のつながりが一層深まるよう努 報 交部長会議の議決をもって、 総 や たいました。 本来で のつながりが一層深まるよう の で のつながりが一層深まるよう の で の の の な が 、 九月 十 二 日 に 開催 し ま し た の ま す が 、 六 月 十 二 日 に 別 に に ま し た の ま す が 、 た の ま す が 、 た の ま す が 、 た の ま す が 、 の た の ま す が 、 、 の ま す が 、 の の ま う が の の ま の た の の の の の の の の の の の の の の の	国支部長会議の詳細につきまし 国支部長会議の詳細につきまし たび、九月十二日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を ることを ご 了解願いま した しま した した した した した した した した した した した した した	国支部長会議の詳細につきまし 国支部長会議の詳細につきまし たいります。会員各位には、 で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で のつながりが一層深まるよう のつながりが一層深まるよう を 中止いたしました。 本来で しました。 本来で	国支部長会議の詳細につきまし 国支部長会議の詳細につきまし たいります。会員各位には、 たいります。会員各位には、 たいります。 生げます。 生に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催しますが、 六月二 日に開催しました。 本来で しました。 本来で しました。 本来で しました。 本来で	国支部長会議の詳細につきまし こくる契機にもなると考えます。 このつながりが一層深まるようお いります。 会員に総会を によって、支部や た で た に 開 催 を 予 定 し た い た し ま し た の つ な が り が し ま す の つ な が り が 一 層 深 ま る よ う に よ っ て 、 支 部 た し ま す の つ な が り が 一 を 勝 り ま す 。 会 員 各 位 に は 、 つ を が り が 一 層 深 ま る よ う べ き の つ な が り が 一 を 開 保 を た の つ な が り が 一 を 開 保 を た の つ な が り が 一 の で 、 た う 、 た の し ま う に よ の て 、 た し ま し た の ま る よ の た の た の よ の う る に よ の た の た の た の た の た の た の た の た し た の た の	国支部長会議の詳細につきまして、総部のです。そのことが、若手会員に総会議を行うべきではあります。 とご協力を賜ります。 とご協力を賜ります。 を中止いたしまって、支部や会 においても、ホームページ のつながりが一層深まるようが のつながりが一層深まるよう を中止いたしました。本来で 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 本 王 に開催を予定していました。 本来で しました。本来で しました。 本来で しました。 本来で	国支部長会議の詳細につきまし このながりが一層深まるようお願い ことです。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員 においても、ホームページ です。そのことが、若手会員 においても、ホームページ です。そのことが、若手会員 においたしました。本来で 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 た においたしました。本来で 上げますが、六月 上げます。 本 に に に に に に に に た に た に た に た に た に た	国支部長会議の詳細につきまし このなが図られるよう、新たな発 です。そのことが、右手会員の です。そのことが、右手会員 においても、ホームページ です。そのします。 会員に総会したの新しい夕 においても、ホームページ です。そのことが、右 に開催を予定していました。 本来で したしますが、六月二 とご協力を賜りますが、六月二 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 た です。そのことが、若手会員の です。 た に た のつなが図られるよう、 新たな と で た の た た の た し ま た の た の た し ま た の た の た の た の た の た の た の た の た の た	国支部におきましても、会員相 そ支部におきましても、ホームページ です。そのことが、若手会議の においても、ホームページ つくる契機にもなると考えが 、九月十二日に開催を予定していました。 本来で たいります。 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来します。 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催した。 本来で 日に開催しました。 本来で 日に開催しました。 本来で 日に開催しました。 本来で 日に開催しました。 本来で 日に開催しました。 本来で 日に 月 十二日に 月 七 に し た し ま し た し ま を た し ま た し ま た に ま の た し ま を た し ま を た し ま た に ま の た し ま た し た の た し ま を た し た し た し た し た し た た し た し た し た し	国支部にできるのです。 国支部におしたのです。 そのことをご了解願い たいなどによって、 新たしました。 本来で たいります。 を保し、 そのことが、 若手の においても、 た した し た に おいても、 た し た に おいても、 た し た し た た た た た た た た た た た た た た た	国支部長会議の詳細につきましてのながり合う」 「語り合う」「つながり合う」 「つながりたしました。本来で とご協力を賜りますが、六月 とご協力を賜ります。そのことが、 たけます。 とご協力を賜ります。 を保し、令和時代の新しいと です。そのことが、 若手会議を行うべきではあい たいました。 本来で しました。 本来で は た に に に た に た の た た に た の た た の た し ま た の た し ま た の た し ま た の た し ま た の た し ま た の た し ま た の た し た の た の た し た の た の た の た の た の	国支部長会議の詳細につきました。本来で 「語り合う」「つながり合う」 ではなくとも、電話やメールな におしたの ににした ではなくとも、電話やメールな には に に に に に に に に に に に に に	国支部長会議の詳細につきまして、総親会ではありません。懇親会ではありますが、六月十二日に開催したのです。 「語のながりが一層深まるよう、新たな見に 「語のながりが一層深まるよう、新たなどによって、 「語のたしました。本主なが、 本日に開催となりますが、 六月十二日に開催した。 本市においても、 本日に開催した。 本市には、 が、 九月十二日に に に た の な な と す の し た し た の た し た の た し た の た の た し た の た た た か た の た う た の た た た の た つ た の た つ た の た の た う た の た の た の た の た の た の た の た の た た た た の た の た の た た た た た た た た た た た た た	国支部長会議の詳細につきまして、夕陽会の時間でにあって、約4000000000000000000000000000000000000	国支部長会議の詳細につきました。本来でしました。本来でしました。本来でしました。本来でしました。 「語のたしますが、六月十二日に総合のでした。 「語のたしますが、六月十二日に総合です。 「部におした。 「部におした。 「部におした。 「部におした。 「日に開催した。 「日に開催した。 「日に開催した。 「日には、 「日にに、 「日に、 「一一、 「一一、 「一一、 「一つなが、 「一一、 「一、 「	国支部にののでしたのでは、今まで通いでしょう。しか「ことは、今まで通知に、今まで通知に、今まで、たいまで、たいました。 「たいなどによって、、たいまで、たいました。 「たいました。」 「たいました。」 「たいました。」 「たいました。」 「たしまでには、 「たいました。」 「たしまでに、 「たしまでで、 「たしまでです。」 「たした、 「たした、 「たした、 「たした、 「たした、 「たした、 「たした、 」 」 に し に い た に し に し に し に し に し に し に し に し に し た に し に し に し た に し に し た い た に し た い た に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	国支部長会議の詳細につきまして、 ションの 「語のたいました。本来本 「語の法式の 「ことは、 今まで 「語のたくはあり 「語のたくは のつながり が、 九月十二日の に に し い た し に し し に し い で し に い こ し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し た に し こ し に し こ し に し こ し に し こ し に し こ し こ し こ し し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ こ こ こ こ こ こ し こ こ こ こ こ し こ こ こ こ こ こ こ こ に こ こ し こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ し こ こ こ こ こ し こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	国支部長会議の 「 「 「 」 に は 、 た し に し た し に し た い こ に し た い こ に し た い こ に し た い こ に し た い こ に い た に し た い こ し た い こ に い た に し た い こ に い た し た い た し た し た し た し た し た し た し た し た し た し た し た し た し こ し た し こ に し た し こ し た し こ し た し こ し た し こ し た い こ し た い こ し た し こ し た し こ し た し こ し た し こ し た し こ し た し こ し た こ し こ こ こ こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ こ し こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ し こ こ こ こ こ こ こ こ に し こ し こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	国支部に、 国支部には、 「 に は に し し に し こ し し し し し し し し し し し し し	国支部に、「「「「「」」」」のではない、「「」」のではない、「「」」のでは、「」」の「」」の「」」の「」」の「」」の「」」の「」」の「」」の「」」の「」」
、本号に掲載しております。ご		議決とすることをご了解願いま プ音長会話の話決をもこて 新	議決とすることをご了解願ハま支部長会議の議決をもって、総が、九月十二日に開催しました	議決とすることをご了解願いま支部長会議の議決をもって、総が、九月十二日に開催しました書面決議を行うべきではありま	議決とすることをご了解願いま支部長会議の議決をもって、総が、九月十二日に開催しましたが、全会員に総会議案書を送付	議決とすることをご了解願いま支部長会議の議決をもって、総が、九月十二日に開催しましたば、全会員に総会議案書を送付ば、全会員に総会議案書を送付	議決とすることをご了解願いま 支部長会議の議決をもって、総 すの決議を行うべきではありま ば、全会員に総会議案書を送付 は、全会員に総会議案書を送付 日に開催を予定していました。本来で 日に開催を予定していました本	議決とすることをご了解願います。 大川十二日に開催しました。 本来でしたの、総会議を中止いたしました。 本来で日に開催を予定していました。 年で開催を予定していました。 を中止いたしました。 本来で 上げます。	議決とすることをご了解願います。	議決とすることをご了解願います。会員各位には、ごまいります。会員各位には、六月二日に開催を予定していましたではありますが、九月十二日に開催しました。本来で上げます。	議決とすることをご了解願います。 生いたしました。本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で したは、 ご のつながりが一層深まるよう 解いま のつながりが一層深まるよう のつながりが一層深まるよう のつながりが一層	議決とすることをご了解願いま ではあります。 ことをご了解願いま 、 定は、 定は、 定は、 定していました。 では た に 開催を 予定していました。 た で は た で は た ご に 定 に 定 に 定 定 に 定 だ こ と ご お 定 だ こ た ご お 定 こ た こ と で は た ご よ う お に よ う お し た こ と す よ う お し た こ と す よ う お し た こ と す こ と す よ う お し た こ と す こ と す よ う え し し し し こ と す よ う し し し こ と す し こ と す し こ と す し こ と す し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し こ し <pし< p=""> し し し し <pし< p=""> <pし< p=""> <pし< p=""> <pし< p=""> <pし< p=""> <pし< p=""> し <pし< p=""> <pし< p=""> <pし< p=""> <pし< p=""> <pし< p=""> し <pし< p=""> <pし< p<="" td=""><td>議決とすることをご了解願いま では、全会員に総会議会とすることをご了解願いま のつながりが一層深まるようお願い とご協力を賜ります。 とご協力を賜りますが、六月 上げます。 とご協力を賜りますが、六月 に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で したしました。 本来で はありま に に したしました。 本来で は ると に し た し た に に に に に に た の つ な が り た し た に に に に に に に に に に た の た の た の た の た</td><td>議決とすることをご了解願いま では、 ながいります。 会員に総会員を位には、 たご協力を賜りますが、 たご協力を賜ります。 とご協力を賜ります とご協力を りが一層深まるよう を中止いたしました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で したしました。 本来で した した によって、 を のつながりが一層 深まるよう が のつながりが一層 深まるよう を 見 に に よ の で は た し ま し た に ま の に よ の た の た の た の た の た の た の た の た の た の</td><td>議決とすることをご了解願いま ではあります。 会員に総会議会告 に開催を予定していました。 本来で たではます。 生げます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 たって、支部や会 たって、支部や会 にしていました。 本来で たって、 を来した には、 となりますが、 た月 二日に開催しました。 本来で たって、 を 部やしました。 本来で は ありま で は ありま す が、 た り ま す のつながりが 一層深まるよう 好 報 のつながりが 一層深まるよう の で の た の た の た の た の た の た の た の た の た</td><td>議決とすることをご了解願いました。 で保し、令和時代の新しい夕陽 のつながります。会員各位には、定部長会員に総会して、オンラインによって、支部や会員に総会員に総会していました。 本ームページンの ではありますが、六月二 二月二日に開催しました。 本来ではありますが、六月二 二日に開催を予定していました。 本来ではありますが、六月二 二日に開催しました。 本来ではありますが、六月二 二日に開催しました。 本来ではありますが、六月二 二日に開催しました。 第次とすることをご了解願い</td><td>議決とすることをご了解願いま です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の においても、ホームページ つくる契機にもなると考えます が、九月十二日に開催しました。 本来で 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 本 た のつながりが一層深まるようお願い た です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の</td><td>議決とすることを重くが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、 です。 ではあります。 とご協力を賜りますようお願い とご協力を賜りますが、 たります。 とご協力を思ります によって、 を や止いたしました。 本来で はありま ではありま で によって、 を 来来で によって、 を 来来で に ま で に ま の で た の た に ま の た の た た の た た の た の た た の た た の た た の た の た た の た の た た の た た の た た の た の た の た の た の た た の た の た た の た た の た の た た の た の た た の た の た た の た た た た の た の た た た の た た の た の た た の た た の た た の た の た の た た の た の た の た た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た た の の た う た の た の</td><td>議決とすることをご了解願いまで、総 のつなが図られるよう、新たの人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人</td><td>議決とすることをご了解願いま この なが、 九月十二日に開催しました。 本 来 で す。 そ の つ な が し 、 や に お い て も 、 た の こ と で 活 動 を た し 、 令 和 時 代 の 、 た の こ と が 、 令 和 時 代 の 、 た の こ と が 、 た の こ た の 、 た の こ た の で し い や た の で い た の で い た の た の で し い や た の で い た の で し い た う 、 の て 、 の た の た の た の た の た の た の た の て 、 の 、 つ て 、 の た の た つ て の た の の の こ の た の た の こ の た の こ の た つ こ の た の こ の こ の た つ こ の た こ の つ の こ の こ の こ の こ の こ の こ の こ の こ の こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ</td><td>議決とすることをご了解願いま においても、ホームページ です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員 においても、ホームページ つつながりが一層深まるよう、新た などによって、支部や します。 しても、ホームページ です。そのことが、若手会員 に総力を賜りますが、六月 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 た したしました。本来 に したしました。 本 を 中止いたしました。 本 し た の た に に に に に に に に に に に に に</td><td>議決とすることをご了解無いました。本来です。</td><td>議決とすることをご了解無した、 ではなくとも、電話やメールな のつながり合う」「つながり合う」ではなくとも、電話やメール ではなくとも、電話やメールな のつながります。 のつながります。 そのことが、若手会員に総って、支部したしました。 本ームページ ではなりますが、六月 二日に開催を予定していました。 新したしました。 本ームページ のつながり合う」 「一日に開催しました。 本来ではありますが、 大日にには、 ごの のつながり合う」 「つながり合う」 「のながり合う」 「のなりたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたい</td><td>議決とすることをです。 本 本 本 に は な な な た し た に お た た に お た た に お た た に お た た に お た た た た た た た た た た た た た</td><td>議決とすることを予定していました。 の知知の ではなくとも、電話やメールを のつながります。 ではあります。 ではあります。 ではあります。 です。 です。 です。 です。 のつながります。 のつながります。 のっながの のっながの のっながの のっながの のっながの のっても、 のっても、 のって、 のっ</td><td>議決とすることは難しいでしょう。しか 「語のながしたことは難しいでしょう。しか 「ことは難しいでしょう。しか 「ことは難しいでしょう。しか 「ことは難しいでしょう。しか 「ことは難しいでしょう。しか 「二日に開催した 「二日に開催した 「二日に 「二日に 「二日に 第次 第次 「二日に 第次 第二日 「二日に 第二日 「二日 「二 」 「二 」 「</td><td>議決とすることを予定した。 本来ではあります。 ことは難しいでしょう。 して、 におした。 などにはなくとも、 電話のながした。 などではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 などではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 です。 そのことが、 若手ののことが、 若手ののことが、 若手ののことが、 などによっても、 などによっても、 などによっても、 などによって、 すなのことが、 若手ののことが、 などによって、 などによって、 などには、 のことが、 などのによって、 などのによう、 などのによって、 などのによって、 などのによって、 などのによって、 などのによって、 などのでしまた。 なるとも、 などのによって、 などのによう、 などのによう、 などのでしまた。 なるとも、 などのによう、 などのことを ではありません。 のののでし、 などのによう、 などのでしまた。 などのによう、 などのでし、 などのによう、 などのでし、 などのによう、 などのでし、 などのでし、 などのでし、 などのでし、 などのです。 などのでし、 などので、 などのでし、 などのでし、 などのでし、 などのでし、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 ないました。 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 ないました。 などので、 ないで、 ない、 ないで、 ない、 ないで、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない</td><td>議決とすると言われています。 「部にしたしたの人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人</td><td>議決とすることです。 「語のながした」の収束には、長い時 のつな流などによって、 などし、 や中止がたる した した した した した した した した した した</td><td>議会に、 義型コロナの収束には、長い ではなくは、 うごとは、 今年世のない して、 などです。 その ではなく して、 などです。 その ではなく し、 やの ではなく し、 やの ではなく し、 やの です。 その です。 その です。 です。 その です。 です。 です。 です。 その です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。</td><td>議会にしてしまうのではない ことは、 うべきではありが一層深まるよう、 が 「 に し た し た し た し た し た し た し た し た し た し た し た し た た た た た た し た た た た た た た た た た た た た</td></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<></pし<>	議決とすることをご了解願いま では、全会員に総会議会とすることをご了解願いま のつながりが一層深まるようお願い とご協力を賜ります。 とご協力を賜りますが、六月 上げます。 とご協力を賜りますが、六月 に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で したしました。 本来で はありま に に したしました。 本来で は ると に し た し た に に に に に に た の つ な が り た し た に に に に に に に に に に た の た の た の た の た	議決とすることをご了解願いま では、 ながいります。 会員に総会員を位には、 たご協力を賜りますが、 たご協力を賜ります。 とご協力を賜ります とご協力を りが一層深まるよう を中止いたしました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で 日に開催を予定していました。 本来で したしました。 本来で した した によって、 を のつながりが一層 深まるよう が のつながりが一層 深まるよう を 見 に に よ の で は た し ま し た に ま の に よ の た の た の た の た の た の た の た の た の た の	議決とすることをご了解願いま ではあります。 会員に総会議会告 に開催を予定していました。 本来で たではます。 生げます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 生けます。 たって、支部や会 たって、支部や会 にしていました。 本来で たって、 を来した には、 となりますが、 た月 二日に開催しました。 本来で たって、 を 部やしました。 本来で は ありま で は ありま す が、 た り ま す のつながりが 一層深まるよう 好 報 のつながりが 一層深まるよう の で の た の た の た の た の た の た の た の た の た	議決とすることをご了解願いました。 で保し、令和時代の新しい夕陽 のつながります。会員各位には、定部長会員に総会して、オンラインによって、支部や会員に総会員に総会していました。 本ームページンの ではありますが、六月二 二月二日に開催しました。 本来ではありますが、六月二 二日に開催を予定していました。 本来ではありますが、六月二 二日に開催しました。 本来ではありますが、六月二 二日に開催しました。 本来ではありますが、六月二 二日に開催しました。 第次とすることをご了解願い	議決とすることをご了解願いま です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の においても、ホームページ つくる契機にもなると考えます が、九月十二日に開催しました。 本来で 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 本 た のつながりが一層深まるようお願い た です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の	議決とすることを重くが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員の です。そのことが、 です。 ではあります。 とご協力を賜りますようお願い とご協力を賜りますが、 たります。 とご協力を思ります によって、 を や止いたしました。 本来で はありま ではありま で によって、 を 来来で によって、 を 来来で に ま で に ま の で た の た に ま の た の た た の た た の た の た た の た た の た た の た の た た の た の た た の た た の た た の た の た の た の た の た た の た の た た の た た の た の た た の た の た た の た の た た の た た た た の た の た た た の た た の た の た た の た た の た た の た の た の た た の た の た の た た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た た の の た う た の た の	議決とすることをご了解願いまで、総 のつなが図られるよう、新たの人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人	議決とすることをご了解願いま この なが、 九月十二日に開催しました。 本 来 で す。 そ の つ な が し 、 や に お い て も 、 た の こ と で 活 動 を た し 、 令 和 時 代 の 、 た の こ と が 、 令 和 時 代 の 、 た の こ と が 、 た の こ た の 、 た の こ た の で し い や た の で い た の で い た の た の で し い や た の で い た の で し い た う 、 の て 、 の た の た の た の た の た の た の た の て 、 の 、 つ て 、 の た の た つ て の た の の の こ の た の た の こ の た の こ の た つ こ の た の こ の こ の た つ こ の た こ の つ の こ の こ の こ の こ の こ の こ の こ の こ の こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	議決とすることをご了解願いま においても、ホームページ です。そのことが、若手会員の です。そのことが、若手会員 においても、ホームページ つつながりが一層深まるよう、新た などによって、支部や します。 しても、ホームページ です。そのことが、若手会員 に総力を賜りますが、六月 上げます。 上げます。 上げます。 上げます。 た したしました。本来 に したしました。 本 を 中止いたしました。 本 し た の た に に に に に に に に に に に に に	議決とすることをご了解無いました。本来です。	議決とすることをご了解無した、 ではなくとも、電話やメールな のつながり合う」「つながり合う」ではなくとも、電話やメール ではなくとも、電話やメールな のつながります。 のつながります。 そのことが、若手会員に総って、支部したしました。 本ームページ ではなりますが、六月 二日に開催を予定していました。 新したしました。 本ームページ のつながり合う」 「一日に開催しました。 本来ではありますが、 大日にには、 ごの のつながり合う」 「つながり合う」 「のながり合う」 「のなりたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたい	議決とすることをです。 本 本 本 に は な な な た し た に お た た に お た た に お た た に お た た に お た た た た た た た た た た た た た	議決とすることを予定していました。 の知知の ではなくとも、電話やメールを のつながります。 ではあります。 ではあります。 ではあります。 です。 です。 です。 です。 のつながります。 のつながります。 のっながの のっながの のっながの のっながの のっながの のっても、 のっても、 のって、 のっ	議決とすることは難しいでしょう。しか 「語のながしたことは難しいでしょう。しか 「ことは難しいでしょう。しか 「ことは難しいでしょう。しか 「ことは難しいでしょう。しか 「ことは難しいでしょう。しか 「二日に開催した 「二日に開催した 「二日に 「二日に 「二日に 第次 第次 「二日に 第次 第二日 「二日に 第二日 「二日 「二 」 「二 」 「	議決とすることを予定した。 本来ではあります。 ことは難しいでしょう。 して、 におした。 などにはなくとも、 電話のながした。 などではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 などではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 ではなくとも、 です。 そのことが、 若手ののことが、 若手ののことが、 若手ののことが、 などによっても、 などによっても、 などによっても、 などによって、 すなのことが、 若手ののことが、 などによって、 などによって、 などには、 のことが、 などのによって、 などのによう、 などのによって、 などのによって、 などのによって、 などのによって、 などのによって、 などのでしまた。 なるとも、 などのによって、 などのによう、 などのによう、 などのでしまた。 なるとも、 などのによう、 などのことを ではありません。 のののでし、 などのによう、 などのでしまた。 などのによう、 などのでし、 などのによう、 などのでし、 などのによう、 などのでし、 などのでし、 などのでし、 などのでし、 などのです。 などのでし、 などので、 などのでし、 などのでし、 などのでし、 などのでし、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 ないました。 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 などので、 ないました。 などので、 ないで、 ない、 ないで、 ない、 ないで、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない	議決とすると言われています。 「部にしたしたの人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人	議決とすることです。 「語のながした」の収束には、長い時 のつな流などによって、 などし、 や中止がたる した した した した した した した した した した	議会に、 義型コロナの収束には、長い ではなくは、 うごとは、 今年世のない して、 などです。 その ではなく して、 などです。 その ではなく し、 やの ではなく し、 やの ではなく し、 やの です。 その です。 その です。 です。 その です。 です。 です。 です。 その です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。	議会にしてしまうのではない ことは、 うべきではありが一層深まるよう、 が 「 に し た し た し た し た し た し た し た し た し た し た し た し た た た た た た し た た た た た た た た た た た た た

陽

タ

슾

は

報

宗谷、留萌、帯広十勝支部は、オン

部長会議が開催されました。なお、 ホテル函館ロイヤルにおいて全国支 ととし、令和二年九月十二日(土) の議決をもって総会の議決とするこ 特別の措置として、全国支部長会議 ながら中止となりました。そのため

ラインでの参加となりました。

審議に先立つ挨拶の中で藤川会長 「六月の総会、懇親会の中止決定

第229号

令和2年度

全

コ

12

ナ

禍

に

お

け

るタ

陽

会

の

在

り

万

により、

本年度の本部総会は、残念

新型コロナウイルス感染症の影響



支 られ、続いて新谷財政部長から、 踏襲・継続するとともに、このコロ 和二年度は、 推進事項・事業計画が提案され、 処理されている旨の報告がありました。 和元年度の通常会計と基本金会計の 令和元年度の会務・事業報告が述べ されました。次に、白川幹事長より との思いが日々強まっている。」と述 後から、自分の中の夕陽会の時計は を改めて見つめ直していくことが提 ナ禍において同窓会の意義やあり方 長より令和二年度の運営方針並びに 報告で門脇監査から、すべて適正に 決算報告が行われました。続く監査 団体・一個人へ授与したことが報告 と、昨年度から始めた学生表彰を二 年三月末の卒業・修了生の進路状況 選出され議事が進行しました。 べられました。 夕陽会の時計を止めてはならない。』 ナ禍の状況の中とはいえ、『このまま 止まったままの状態であった。コロ より母校函館校の動向として令和二 報告事項では、まずは、藤川会長 議長に天野副会長と伊藤副会長が 協議事項では、はじめに白川幹事 部 基本的に前年度方針を 長 令 令

|--|

[2]

【本部 経織部】	は、今後、名簿は送付しません。	1	「組織・会費・名簿・事業」の四観
	将不要に		令和二年十月に第二回会議を実施し
も、これまでどおり本部事務局へご	す。 		様子についての報告があり、今後、
○名簿記載事項の問合せにつきまして	※返送用葉書に記入後、投函願いま	in the	た第一回令和の夕陽会を考える会の
及び登録事項の修正ができます。	内容 ①名言呂奪り送け公要り有無 内容 ①名簿記載事項の正誤確認		白川幹事長より、昨年十月に行われ
※夕湯会ホームページからも会員登録		「「「」、支	続いて、連絡・依頼事項として、
メール:sekiyoukai345520@gmail.com	時期、令和三年三月	部が	場の拍手をもって承認されました。
FAX:〇一三八―四七―七三七六電 記・〇一三八―三四一五五二〇	☆前納会員への確認の手紙	50	報告事項と協議事項はいずれも満
えた・) 一二、三日 二二一) ク陽会本部事務局	L E	の報	部総会の期日が提案されました。
	忝えをお顔ハ申し上げます。 しますのて 名簿確認作業へのお力		に令和三年度の全国支部長会議、本
= 函(時期がまいりましたらご案内をいた		スライドすることが提案され、最後
F	でどおり行わせていただく予定です。	2	考委員について、次年度以降に順次
これ言てとまれる言矛盾によ願い	に各支部による確認作業は、これま		運営の議長・議事録署名人、役員選
○住所変更や入会・計報等の連絡は、	弋お長り	(庶務部長より令和二年度以降の総会
	A4版になります。記載内容はこれ		の提案がありました。さらに、太田
・令和匹年一月 前納会員・	また、名簿の大きさも一回り大きな	(平成14年修 情宣部員 坂井顕也 記)	改選期を令和三年度に移行する。と
月	入の上ご返送をお願いいたします。 のて 内容を確認し 辺境勇善に言	交流されました。	令和元年度の役員を継続としたため、
 ・令和三年六月 業者名簿作成作業 	のご、内容を確認し、反告書こと 年三月の会報に同封されて届きます	ために工夫して活動していることが	和二年度は、役員改選期であったが、
(令和三年五月まで) ・ 今和三年四月 名支音確語化業	前納会員の皆様には確認の手紙が来	それぞれの実態に応じて課題解決の	元年度の役員体制を継続する。②令
+11	これまでの名簿作成とは異なり、	若手教員の育成、後継者対策など、	かったことから、基本的には、令和
·令和三年三月 前納会員確認手紙	ハご承認を得たところです。 全国支部長会議においても説明を行	こと、他業種の会員の調査・発掘、	て①本年度は、総会を実施できな
(令和三年五月まで) (令和三年五月・イ湾 多貞 確言 作業	先日開催されました本部役員会議、	と、会員減少が共通する課題である	次に、藤川会長より役員改選につい
们		の支部も総会を実施できていないこ	度の会計予算案が提案されました。
·令和二年2	す。函館市内でも同社に委託してい 名簿の作成を請い負っている会社で	ら現状報告が行われ、本年度は、ど	また、新谷財政部長より令和二年
○発行スケジュール	お声)をない合け良っていったという。	がなされました。その後、各支部か	運営の在り方を検討する。
どおり無償でお届けします。	業者は(姓	部部長からの提案や依頼事項の報告	本的に見直し、通常会費による会
○前納会員、現役会員には、これまで	データ確認等の作業が始まりました。	さらに、報告・交流として各専門	をお願いしながら、事業内容を抜
○次号発行予定 令和三年十二月	委託こつきまして本契約が完了し、 定いたしました会員名簿作成の業者	とが報告されました。	別寄付を半額として引き続き協力
☆会員名簿発行までの予定	昨年度、令和元年度の総会にて決	ケート調査を実施する予定であるこ	れば会運営が難しい。当面は、特
の当社名が知道にこして	ノエーモン人工が注し	とともに、各支部を対象としたアン	の事業内容では、特別寄付がなけ
いきたてもこう うこ		点にかかわる内容について検討する	を行わなければならないが、現在

陽

-タ

숤

報-

一第229号一

																	タ	,		陽	3		会	Ì		郣	ł—												第2	29号		_
運用に努める。		「つなぎ」、「集う」視点から、	直し・効率化	3 財政の効率的な運用と業務の見	の育成。(重点事項)	める若手会員の中核となる人材	(4) 民間企業、地方公共団体に勤		(3) 地域の教育・文化の振興を	連携。	(2) 関係機関・団体に所属する会	管理職等との連携。	員、首長部局職員、教育行政・	(1) 会員である道・市町村議会議	の向上を図る。	人材の発掘と会員の資質・地位	2 人材の育成	(5) 夕陽会報29、23号の発行。		(4) 若手会員の運営への積極的な	0	另	事項)	活性化と本部との連携。(重点	支部、ブロック	報活動や組織拡充の取組。	多くの同窓生が隼	3°	会員の組織化と会運営の効率化を	会員相互の連携を重視し、各界	1 組織強化と運営の効率化	《推進事項》		努める。	化を図り、次の各事項の深化拡充に	らす運営の充実と活動	トーに、会員一人一人に活力と潤い	:動する夕陽会」	《運営方針》	夕陽会運営方針並びに	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	······································
地域住民への開放などの検討。	③ 夕陽記念館の教育活用、学生・	陳列品の整備。(重点事項)	(2) 夕陽記念館内外の環境整備、	の 周 知。	収集と会報やwebページ等で	会員の作品、記念資料	に努める。	の収集と適切な保存、展示、活用	夕陽記念館への各種記念資	の整備・活用	6 夕陽記念館(北方教育資料館)	活動への支援。	(4) 学生のスポーツ・文化・芸術	の協力・支援。	③ 大学の地域連携・社会貢献へ	発と勧誘活動の工夫(重点事項	(2) 学生に対する同窓会意識の啓	教採対策関係事業への支援		科の支援を行う。	母校の継続と発展を願	5 母校への支援と地域への貢献	MIZ.	(4) 会員や母校学生による文化事	-	(3) 「若手枠」の活用による夕陽会		容の紹介。	(1) 研究・研修助成並びに研究内	等の研究・研修意欲の高揚を図る。	等を奨励し、明日の夕陽を担う会員	1C	4 研究・研修、文化事業の奨励	入への取組。	1万5	点事項)	(2) * 専門部、諸業務、諸事業の見	策	(1) 財政基盤の中・長期的な整備	並びに推進事項		7 * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
と	4 その他、組織全般に関するこ		簿の作成にカカれる資料	言語の言な言いのの合体の反応	と 形 史 引 と 彩 と 	員名簿)	2 会員の動態調査(支部別、校	策	1 支部組織の編成と組織強化対		五十嵐義幸(附属小副校長)	糸	且 哉 邓		5 その他、財政に関すること	4 前納会員に関する事務	3 予算書、決算書の作成	支出事務	2 基本会及て作用会言の役印		1 通常会費の毀区、支出事務	新谷 公康(北美原小長)		財政 部		4 その他、庶務に関すること	会員の慶	会員の影号事	23 女 書 り 又 会 、 送 会 ど 呆 音		1 諸会議(含懇親会)の諸準備	オ日子住子(阿厬将文副材長)		表子。 段() () () () () () () () () () () () () (庶 矜 剖	Ż			事務同業務分担	日本 日		
			4	65	8 2	2		1			厚	į	2	4		3		2	1				开		3		2	2 1	Ĺ			文		0					2	1	作	主月し

宣
部

その他、情宣に関する	「夕陽会報」の発行	樫野 人範 (知内小長
ること		

web委員長

佐々木正幸(桔梗小長)

○ 夕陽会ホームページの充実

仲井 靖典(本通中長)

J		4	- L
。 その他、文化に	活動への協力・支援	2 学生のスポーツ	- 会員の文化活動
関する	抜	· 文 化	に対す
ること		•	る
<u> </u>		芸術	反援

修 部

高橋 吉隆(万年橋小長)

- 2 会員の個人及び共同研究への1 会員の地位向上対策
- 4 その他、研修に関すること 活動に対する支援 助成

序 生 部 濱 谷

- 1 会員の親睦及び福利、厚生事 濱谷 操(^{桔梗中長)}
- その他、厚生に関すること
 夕陽記念館の整備、充実
 第0 2 記念資料及び会員の作品収集

Ξ

畄

安

				-タ	陽	会	報		——第229号	<u>1</u>
		会 幹副長	会 幹副副長	、会幹副	副副副	副長(会	幹副副副長 (会幹副副長会	会幹副副副長,	- 8 8
檜 松 木佐	会長熊秋	三三飯佐	宗 上 佐奥平清清	- 伏岡水	加加小	小 鈴木 原	本齊小三橋之	後 石 5。佐石中三岩 (▲ 左荒木大加野	- 令
	云尾倉葉	野野 古宮田藤	藤野井杉水	間田口	藤藤林	木村。田	田藤田浦本		< 木川村桃藤村 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■	⑧和 ⑧
山)由秀	一点 [、] 聰一良	萌 ︶誠誠 佳	谷 川) 幸清佐陽孝	【 く公貴正	広達稔	 臀 喜俊ン益	[明信篤卓直]	~ 雅伸崇 ~ 3	• 惟芳大規貴幸	「一一」
甲 子斗	会 美弘之	一一毅弘	子隆知一徳	洋幸紀	子子史	代 志夫 明	美之志也樹	四 貢之次史隆 计	战央輔之子明	度
昭 平平	昭平平	平平平昭	平平平平昭		昭昭昭		昭昭昭昭昭			支
	623元	4 4 1161			616059		6060586158		36161615958	部
部 萌毛	小初留	豊豊稚利 富富内尻	旭東旭旭音 川川川川威 王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王王	樽樽樽	小小小樽樽樽	樽樽 知	余岩真古留市内狩平寿	歳庭別別別 🖡	礼札札札札札 晃幌幌幌幌幌	g g
町 市町	町別市 村	町町市富 町 町	市町市市子府村	փ փ փ	市市市	巾巾 安町	町町村町都 村	市市町市市	市市市市市市	役
乙 留增 部 萌毛	小初港	豊豊稚鴛	神東青緑薫	張幸桜	潮張銭	桂花 俱	東岩真古留	北恵当大豊 進み別麻幌 利	手栄富中あ東	頁
- 申 - 小小	平山北小別小	富富内泊 小小中中	居川雲新学東小小小将	小長長	見碓函台小小	小小 安	中内狩平寿 長東中小都	小野中東小	留町丘のつ橋 山中小島ベ小	名
長 諭諭	論中長 長	長長央長 小	小諭諭諭奶	頭	小長長 長	長長 小 諭	小長長中 長 長	長長 長 ノ	コ長長小つ長 ト 長き	簿
		頭	ン タ し 所					t	長 た 幼	
人本司	히토	人共司官	長	리토	人本人	리 리 리 단	티 (16 达司司臣	長	
	副長(第二)	会轩副長 <u>)</u>	会轩副 长 (会朝 	·副衣(」,日	会 轩 副	副副副長	、 会会軒副副 胆 胆	则長、幹副副長、 二、空 _{の正山立}		、会轩副 E 西河水
吉丸竹		田鳴古鳴	中森栗原 広 石堀				振大小本小有 夕山笠	台	小金白三山 宿	茅酒米
田山村	室	路	村下原見十岡 勝	高			陽 口原川玉村 会	知 ī	□ 又澤石上内 「	森井田 5
	浩真 					知和浩誠		さ		
規雄裕						憲実司司	輝樹一剛系		子力嗣喜禎	男志昌
平昭平 1262 2	平昭 262	平昭平昭 1058258		3昭昭)6159		昭昭昭昭 62595860	平平昭平昭 7463元63		平昭昭昭昭 662606060	平昭昭 46261
中别根	根別	釧釧厚釧	带带更音 新平	新日	白登白	苫伊登室	新上岩長芦	言滝 兩兩兩兩	四 七七七森森	上今厚
標海室津町市	室海	路路岸路	広広別更 ひ取 市市村町 だ町	(冠高	老別老	小達別蘭 牧市市市	十砂見沼別 津田沢町市	川川 館館館館	飯飯飯町町 町町町	上今厚 ノ金沢 国町部
町			か 町			市	前町市 町		四	町町
中西成 標春央	落中石西	青大厚大 葉楽岸楽	愛つ更音 静貫 国つ別更 内気	〔新厚 〔冠賀	萩緑萩	拓伊幌八 進達別丁	新上栗長芦 十砂沢沼別	与江 神中戸港 山部 山央倉小	大藤大鷲駒 沼城中ノヶ	河今厚 北金沢
津別小東小頭	中別	小毛小毛	小じ小小 中別	小中	小中小	小中小平 長長長小	津川中小小 川中長長長	心乙 小小中長	岳小山木岳 陽長小小小	小中部頭長小
小頭	長	長長	丘 長 小		<u></u> Щ	長民民小長	中頭頭	長	頭長長長	長
484 1			小長				與			

長代 首 会幹副副副長, 幹副副長, 会幹副副長, 会幹副副副長, 会幹副副長, 会会幹副副副副副副長, 着 橋山金熊村田 松池大鈴森坂澁佐佐木森帰湯矢工黒湯森太郡久伊竹別水熊円扇花藤清江佐竹渡等 者 網 ·齊佐**走** 石森 生田浦木南本谷木木村北山田野藤丸田津田川富藤内援野谷山柳松井水尻藤内邉学神神藤藤連 都 面 田口沢谷上木 田屋 **チ** ン大真和 校 部 Ē 軽 圏 ≝ 含 道道勇政茂 広隆謙康修 幸秀久 千孝正友 校高悟健尚 祐 孝孝 和 恒 健秀 浩信 迎 住 介子典稔 久宏 孝明子夫悟樹 樹行 一栄治 博樹光浩吾樹 子行規紀哲 彰史一英均之彦巧健琢司 久久修俊 平平平平昭 4元3261 平平平平平昭昭昭昭昭昭 271章57363636362605958 昭昭 平昭昭昭昭昭 平昭昭昭 平平平平昭 平平平昭平平 昭昭平昭 9 57 50 52 51 48 16 4 5 2 61 6161259 11585858 2元元63元元 5555 院 日千野代 盛盛宮花盛奥 岡岡古巻岡州 青五五つつ森所所がが市原原 青む青弘青む 森つ森前森つ 函函七函紋函奥北え七札 館館飯館別館尻斗り飯幌 佐佐佐北 呂呂呂見 函函新札千 階南八八 上部戸戸 館館篠幌歳 市田 市市市市市市 町町市市 市市市市市市 市市津市市 市市町市市市町市も町市 間間間市 原原市市市 町町町 村 町 X 奥州市教委教育長奥州市教委教育長 県教育庁文化財保護課 中央小頭 でみ小頭 でみ小頭 総算校教育センター特別支援教課員会教育センター特別支援教育センター特別に、一個人長三内小長 附属特別支援副校長北海道升線津高等養護長北海道星置養護長 石名八小 鉢久戸中 小井小野 日参 県立青森第一養護諭県立むつ養護長 若若佐東 佐佐呂小 野議 小小間長 新小長小 長 長 長長中 長 長

——第229号————	タ	陽	会 報-			
2 2 1 1 2 2 7 1 1 8 般 会 の 日幹感事渡務	はき 「 大 町 お ま か さ 小 会 の り 若 船 支 の の ち う の ち ろ の ち の ち の ち の ち の ち の ち の ち の ち の ち の ち ろ ろ ろ ち の ち ろ ろ の ち ろ ろ ち ろ ろ ろ ろ ち ろ ろ ろ ろ ろ ち ろ ち ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ち ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	町夕る話十 支陽べに 丢 会 会 な の かっ	ー中 う実 ご学私ぞ・ ^三 校はよ発	賜会ののつし り長引重かてこ なたきさり夕の	0	
会局事調長局でに支長の会支	子校教頭の	、 「 何 む お り 市 ま か ま ま う て 節 た わ り ま う で 節 た わ り ま う で の お り 市 た わ り ま う で 節 た わ り ま う の も わ り ま う の も わ り ま う の も わ り ま う の も わ り ま う で あ り 市 た わ り ま う で あ り ま う で あ り ま う で あ り ま う で あ わ り ま う で あ わ り ま う で あ わ り ま う で あ わ り ま う で あ わ り ま う ち わ り ま う ち わ り ま う で あ わ り ま う ち わ り ま う ち わ り ま う ち う ち わ ち ち う ち う ち わ り ま う ち う ち ち う ち う ち ち ち う ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち	百社五 「 社 五 よ お の て 九 願 て 九 願 て	らした に し た の し た 副 館 前 に ま る め て 。 安 長 市	Y.	就
川総出に、第 会会席藤渡2 (長・す川島回 新が退る会支支 5	キーに誘って何ですの坂口一引	会もらす部 らなかない たかからず に 十	『以年い参 に来、初した に 渡 に で の の の の の の の の の の の の の の の の の の	賜りながら微力ながら夕陽会の充会長をはじめ役員の皆様のご指導をの引き締まる思いであります。藤川のすりました。夕陽会の歴史と伝統この度、函館市中学校長会を代表	就	石
(新び出席す激館) (新で) します (新び出席す) (新で) (新で) (新で) (新で) (新で) (新で) (新で) (新で	っれも広々 て、思先 く冬い生皇 だにっに開	くすたは一 、南若ど年 当茅いうま 寺部頃、世	- 高でまで 三支尾すす 3 部札。。 と た部 ど	るようと史役会 会指。もとをを の導藤に伝仰代 充を川身統せ表	任に	ц П
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$					の昭和た	J
	わらりん 願いご、 自道目 に	たることである。 で会販上して での見たり での に を り に を り に の に の に の に の に の で の で の の に の の の の	の度の就任	時お世話になったの一個人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人	¹⁵⁸ 年卒 函 医 佐	挨
職 2 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	上にてたいていた。	いばと考えております。一会具相互の	の先輩との	たのないただきました	館 市 立 竹	拶
長会議 を開住 支部総会・先輩 を 行う。 の 教師 塾 を 行う。 の 着 席 で か の 着 に 藤 川 会 に を 行う。 の で の 着 席 で の る の に る に の 本 部 役員 会 を 開 行う。 の の 本 部 役員 会 を 行う。 の の 着 席 に る 館 の 着 席 に る 館 の 着 席 の の 着 席 に る 館 の う の の で の の 着 席 の の 着 席 の の 着 席 の の 着 席 の の 着 席 の の 着 席 の の 着 席 の の う の の の の 着 席 の の う の の の の う の の の の う の の の の う の の の の う の の の の の う の の の の の う の の の の う の の の の う の の の う の の の う の の う の の の の う の の の う の の の の う の の の の う の の の の う の の の の の う の の の う の の の の の う の の の の の う の	。のほどよろ			ののり得みめに	巴中学校長)	
○ 部 ○ 9 ○ 王 ○ 9 ○ 2 ○ ○ 膝 ○ る	<i>'</i>) <i>C</i>	る斑の角		にヨレ助りーよ		

 ★瑞宝双光章(高齢者叙勲6/1) ★瑞宝双光章(高齢者叙勲6/1) 	青森県七戸町花松林ノ根一七 北守 昭文 氏 (昭30年Ⅱ卒 二)	函館市日吉町一の二二の二三橋田 恭一 氏 昭39年Ⅰ卒	▲	************************************	室蘭市日の出町三の九の一三瀬戸 清 氏 (昭27年Ⅱ卒	石狩市花川南六の三の一九六 佐々木 勲 氏 (昭30年1卒 → 昭30年1卒)	受賞(章)おめでとうございます
	★令和2年度道教育功績者表彰 (9/30)	七飯町桜町二の四の一一 古谷 慶治 氏 (昭28年Ⅱ卒 11×1	★日本政府観光局表彰	函館市大川町四の四三の七一三山田 富雄 氏 (昭28年Ⅱ卒	函館市山の手二の三六の七 冨尾 勝氏(昭30年Ⅱ卒)	函館市宝来町一二の七 高田惠美子 氏 (昭44年)	とうございます

りましたが、赴任に伴い初めて訪れ できました。六年を過ごした函館の り利尻富士町立鴛泊中学校に勤務し した授業で本当に生徒が理解できる の振り返りができます。自分が構成 に見返すことによって、 を撮影します。それを編集するため ビデオで自分の授業を行っている姿 オンラインで授業を配信するため、 ではないかと考えるようにしました。 この大変な時期はチャンスであるの 感じることがありました。しかし、 ればいけなく、準備や撮影が大変に 休校中はオンライン授業を行わなけ たり、中止になることがありました。 学校行事も例年よりも規模を縮小し イルスの流行に伴い四月、五月の臨 島で教員生活を始められたことをと 美しい海に囲まれており、この利尻 た宗谷地方・利尻島は豊かな自然と 地を離れることは寂しい気持ちもあ ています。大学で四年、大学院で二 学院を修了しました。今年の四月よ ても嬉しく感じています。 この半年を振り返ると、コロナウ 私は令和二年に北海道教育大学大 教員になることを目指して学ん 在宅勤務日が増えたり、 半年の教員生活を振り返って 自身の授業 (平成32年院卒 ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願 もお世話になることと思いますが、 した。 さんあり、 もありましたが、新たな挑戦がたく ションが取れず、 とや、生徒と対面でコミュニケー 環境での学校生活で不便に感じるこ とだと感じました。日常とは異なる ことができ、更には、他の先輩教員 このように、自身の授業を振り返る 授業に取り入れることもできました。 きたので、良いアイデアを積極的に 先生方も見ることができるので、 まとめは一致しているのか、など多 いいたします。 徒に還元できるように努めていきま のは、オンライン授業ならではのこ の授業をじっくり見ることができる 私も、他教科の授業を見ることがで ドバイスを頂くこともありました。 機会でした。また、配信授業は他の るか、声の大きさは適切か、 \mathcal{O} す。夕陽会の先輩の皆様には今後と 研鑽を積み、指導力を向上させ、生 くの点を振り返ることができる良い まだまだ未熟者ではありますが、 か、 利尻富士町立鴛泊中学校教諭 説明はわかりやすくできてい 良い学びの機会となりま 佐 寂しく感じること 藤 麻 目標と 耶 7 日現在の仕事内容は、年が経ちます。 持 社員の資格取得や教育・研修に関 む採用業務全般の他、 という人生の大きな決断のタイミン 人一人のキャリアをしっかりと見据 うだけでなく、我々も学生のため人 当の仕事です。当社の選考では、 皆さんとの最初の接点が我々採用担 の中で、次世代の会社を担う学生の くの専門的な仕事が存在します。そ ないところで店舗をサポートする多 ますが、実際はお客さまの目に触れ うと店で働くイメージが強いと思い を経験し、現在の部署へ配属され六 て十年。入社後は四年間の店舗勤務 大きな責任を感じる分やりがいを 輩として学生の皆さんと関わるため、 グに、企業側の立場で社会人の一先 合うことを大切にしています。就職 え、一方通行ではなく相互に理解し を知り入社後共に働く仲間として一 生の皆さんに企業理解を深めてもら る業務となります。 DCMホーマック株式会社へ入社し って業務に取り組んでいます。 北海道教育大学函館校を卒業し、 店舗運営をする小売業の会社とい 私にとって大学四年間の学び、 社内報作成 主に面接を含 地域を、人を支える仕事 (平成22年卒 DCMホーマック株式会社 学 部 わ す。 た。 謝申し上げます。 今後も邁進していく所存です。 で、一人でも多くのお客さま、そし の中の変化に対応し続けるこの会社 日々痛感しますので、これからも世 一人一人と真摯に向き合う大切さは 個々にも違います。そのことからも、 社会事情により大きく変化する上、 わっているという自負が芽生えまし の中にとって必要不可欠な仕事に携 場面が多々ありましたが、同時に世 際に企業としての在り方を問われる イルス感染症などが起こり、 北海道胆振東部地震、新型コロナウ 考えた結果、就職活動では小売を第 $\overset{\circ}{\mathsf{P}}$ 祉の分野に興味が深まり民間へシフ 野に入れていましたが、専攻する福 た人間関係はかけがえのないもので 活動やアルバイト経験、 に知っていただく機会をくださり感 て学生の皆さんのお役に立てるよう 在学当時の私のように様々な経験や 一志望に動きました。 学生の皆さんの考え方や価値観は 最後に、異業種で活躍される皆様 入社してからは、東日本大震災や しかし、実習後に改めて将来を 入学当初は中学校教諭の道も視 Ι 管理部 藤 採用・教育課 そこで培 奈 有事の 央

陽

タ

時休業や、

会

報

年、

第229号

各

界

G

活躍

đ

るタ陽

公



る教育の展開をテーマとし 年では、時代の最先端を開 り組んできました。特に近 日々の教育・研究活動に取 域の教育課題を解決するモ ました。以来七十余年、国 昭和二十二年四月に開校し 学校における教育実習・教 た「ICTを活用した教育 たな時代 『Society5.0』 を創 拓する教育研究として、新 開拓する教育研究を使命に デル校及び時代の最先端を する拠点校として、また地 の教育政策を先導的に推進 育研究フィールドを担い、 北海道教育大学附属函館 北海道第二師範





知问

朗・知徳」に基づき、子どもたちのています。また、校訓「自主・明

います。このことは、 る端末整備などの実践研究を進めて システムの教育活用と、BYODによ めて低コストに導入できるクラウド 証)」を柱とし、 グーグル提供の極 証研究(遠隔教育システムの活用実 時代の学びにおける先端技術導入実 係る情報教育の体系的な推進」や「新 育成」、「次世代の教育情報化推進に 報を整理・発信・伝達できる生徒の ました。現在は、「他者と協働して情 育環境の整備や実践に取り組んでき PC(端末)環境」にこだわり、教 的な導入から一貫して「一人一台の 価なタブレット端末四十五台の試験 本校では、 平成二十四年より、 特定の条件が 安

すら教指実的ば可どお力る必し来す。 。れ育現にし能たの資要しいるで でが新」「でもたて育質と時でで いまをしてた。 まめな目の体伸の子に能れに新す	今の子どもたちが築くうなっています。	に貢献できるもの考えています ものです。この最先端の取組を も実践できるものとして進めて ものです。この最先端の取組を たい地域そして全国の学校にお
	たちが築く、次世代の 厳しい挑戦の時代と がしい挑戦の時代と で、世界を一	もの考えています。

かとうございました。	が
けると幸いです。あり	け
らしければご覧いただ パード	ろ
す	\$
については、フェイスブックなどで	12
や研修・実	
ろしくお願いいたします。	ろ
にご理解とご支援を賜りますようよ	12
の解決に向けて取り組む附属函館中	Ø
の解決に向け	題
と願っています。山	43
地域に貢献できる附属学校でありた	拁
ように本校は、実践や研究を通じて、	よ
遣依頼をいただいてい	派
合わせ	43
団体等から本校の実践に関するお問	団
、全国の教育	Ŋ
クール構想の実現が進め	ス
、国の教育政策としてGIC	
献する学	12
\mathcal{O}	1.
題	課
国の先端的研究に挑み、地域教育の	玉
Ū	と
し、 学	を
本校は、伝統である「研究と実践」	
地域に貢献する附属	1
たしていきたいと考えています。	t-
決に貢献す	解
的に取り組み、地域の教育課題	極
新しい時代に向けた教育実践を積	

				-タ		陽		ÂH	2		報										第2	29号	Ļ	_
⑧ 北海道	教	育	5	大学	学	B	付	屌	副	朱	寺	另	IJ	3	t	Ð	SIZ	学	計	交	2	1	-	5
th か多く 在籍 する 本校 ですか 発	かかわりが苦手な児童	~ 他者との	もっとを育てるためには、友達	☆ ~もっと! ※を育てるために	ます。	願いながら学校教育を展開してい	び続ける大人になってほしい、と	い」「もっとやりたい」と自ら学	も大人になっても「もっと学びた	を学校教育目標に掲げ、卒業して	に意欲がもてる子どもを育てる」	「学ぶことを楽しみ 次の学び	学ぶ学校です。	部から高等部六十名の児童生徒が	本校は、知的障がいのある小学	ていただいております。	育実習や、研究の場として活用し	免許取得を目指す多くの学生の教	これまで母校の特別支援学校教諭	唯一の特別支援学校ということで、 オ決近教育大学の阿履学校のロマ	と毎道汝育大学の竹属学交の中で	ヨしており	校です。本校は、夕陽会事務局の は対演教室力学附属権労 うませ	化每首牧育大学付属寺川支爱学
発達設備にあわせた人とののかかわりを 並び、近隣の北美原小や きな学校になっています。 ので生活するように	命う	い校	児童生徒が社会自立する場となる地域	☆ まずは地域に知っていただくこと	です。	かかわりに関する力を育てているところ	でもその場面を設定しながら、他者との	校内だけではなく、他校との交流の中	かけて育てていきます。	かかわりの場面を設定しながら、時間を	達の良さを見付ける高等部、と授業内で	自分	とができるようになる小学部、友達の意	ものや遊びを通して大人とかかわるこ	います。	図的なかかわりを通じて育てようとして	他者評価に至るまで、教師が仕掛けた意	達段階に合わせ、人への興味・関心から	1	-	-	V. Kol	定流(J	
 「していた」 「していた」	「いられると一国電営で作って」と家族	「図書室ご吏って」	ていただきました。	の地域の方々に学校の話を聞いていただでしたが、寄附をお願いする期間、多く		めには、本校独自で百万円の寄附をお願	予算を合わせた一千万円の工事を行うた	した。学校独自で集める百万円と大学の	性化リノベーション事業」に取り組みま	て、本校では大学で行う「キャンパス活	さらに共生社会実現のための取組とし	☆ 地域と共に子とせを育てるために		がい理解のための講演会を実施しました。	童とその保護者にも参加してもらい、障	きし、附属函館小や北美原小の高学年児	用し、道南出身のパラリンピアンをお招	「こころのバリアフリー推進事業」を活	本		こんでい	うに	ていただく	
高等部作業の製品販売方法も模索中				:163	「「「「「「「」」「「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」」「「」」「「」		たします。	理解ご協力をどうぞよろしくお願いい	後とも本校の教育活動推進のため、ご	要とする学びもたくさんあります。今	ション、働くことなど、地域の方を必	人とかかわること、コミュニケー	す。	とが、現在の本校の目標となっていま	校を地域に開かれたものにしていくこ	もの頃から育てていただくために、学	童生徒が成長し自立する地域に、子ど	学校や家庭だけではなく、いずれ児		ども地域に広く知っていただくことも	高浄形で又)且しご乍巻退品の反忘えるよう整備をすすめています。また、		• ~	学交への

キャンパス活性化リノベーション事業では 多くの方にご協力いただきました

	部だより		
であると改めて感じています。		努めて参ります。	親会が札幌にて令和二年一月に開催
益な場を持つ工夫をすることが急務		の活躍につながるものになるように	それを記念した総会、研修会及び懇
が叶わないとしても会員にとって有		け、本支部の活動が会員のこれから	部は本年設立二十周年を迎えました。
堂に会することは理想ですが、それ		さらなるエールを送	このような経緯を経ながら、本支
は実施できませんでした。会員が一気していたナ月の予音新会一種個会		姿には感謝するとと	あったからにほかなり
⋶していこれ引つ友邦窓会・研修会 たちは不自由な生活を強いられ。予		いる現状において、現在の会員が奮	たのは夕陽会の先達の皆様の御活躍
今年度は、世界的なコロナ禍で私		等に勤務	援(特殊)教育の充実・発展があっ
当面の目標です。		の会員が活躍しています。特別支援	おける
ぐことが現職の私たちの使命であり		センターの職員という第一線で多数	教育=夕陽会と称された活躍があり
続けてこられた諸先輩の想いをつな		として、本庁・局及び特別支援教育	輩出するなど、特別支援(
この組織を立ち上げ、力強く活動を受い第二、アメイスで成っていた。		で校長及び副校長、教頭そして教諭	に就かれ
実に寄手する人才を宣伐するためこて北海道の高等学校教育の発展・充		実現に向けて、現在も特別支援学校	センター所長、北海道特別支援学校
これ毎年の毎年を次ずの考察 いえます。かつて、一夕陽魂」をもっ		抱き続けた願いでもあります。この	育課長、道立特別支援(特殊)教育
流れに即した対応が必要になると考		目標であり、昭和の時代から我々が	、教育指導監
ことなどを前向きに検討し、時代の		教育システムの構築」は社会全体の	改名され現在に至っています。
活用してweb会議を行ったりする		「共生社会の実現」「インクルーシブ	二十年から「特別支援学校支部」と
を行ったり、インターネット環境を		大きな影響をもたらしてきました。	諸学校支部」として承認され、平成
開設して日常的に情報の提供や交流		れ、それに伴う変動は学校現場にも	本部総会をもって正式に「特殊教育
が不可欠であり、列えば支部HPを郎にかてきめ斜かく払けていくこと	•	対する法律や施策が次々と打ち出さ	づけられました。平成十二年六月に
たここのこう用いたがこい。 ただこのであります。 ながったり日ク網を一層組織		(平成の時代には障がい者(児)に	として本部会則の細則第四条に位置
な財産になります。そのためには高		貴重な時間を持つことができました。	成八年に「夕陽会特殊教育専門部会」
な実践の情報を共有することは大き		テラン、OBまで共に語る場として	殊教育諸学校部会」に発展し、
行っている同窓生がおり、その貴重		流がなされました。若い世代からべ	足しました。平成七年に「夕四
創意工夫をこらして魅力ある授業を		部の役割を考える」と題した意見交	
る必要があります。全首の高交こよれていて、これ部で以上に矢見を糸		会では「これからの特別支援学校支	絡会」が結成されたのが始まりです。
こつって、これたで以上に 田恵を茂		と現役の会員が参集しました。研修	「札樽地区特殊教育諸学校夕陽会連
助:目口 、 口、…助:、」ト っ 万 ≲ 職の 同窓生に 高校支部の 存在及び活		Ó	の義務ル
卒者)は見込みづらいことから、現		ました。当日は	本支
58年卒 北海道札幌毛	(昭和	(昭和61年卒 北海道千歳高等支援学校長)	(昭和
高校支部長渡记辺祐二司	Caller And	特別支援学校支部長 竹 内 哲	特別支
来の支部の在り方を考える一部たより	ー将来の支部 た	支援学校支部だより	トレート 特別支援

陽

タ

会

報

-第229号

							—タ	,	陽	会	報	l					- 第229号	
回館市本 三上 力坦	函館市西	工藤 恒夫	石井 函館市上 人	(((((((((((((((((((札幌市西区	函館市湯!	函館市日吉町:	※田 室館市山	函館市梁:	函館市 亀	函館市西旭 渡辺 康孝	函館 市住	東京都稲城市 小島 泰雄	北原 正武	函館市 青 久		新 新	前
二市本通1の4の37	桔 梗町 745昭	八見 町 氏 11 の 昭 1833	上野町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 昭 8 33	川 5氏 の 10昭 の34	二西野4の3の6の	湯川町2の33の6	吉 町 氏 4 の 昭 2932	n の 手 2 の 昭 2347	川町4の昭150	田 港 町 19昭 の31	旭岡町 2 の 39 30	吉町 4 の昭 127	中若葉台 3の26	至平区西岡 230	F柳町9 の 2 30		新沼 潔 伊 達 昭59	納 会
長 2 長 5 男 5	の24 5 女 2 夫 5	Ⅱ 2 妻 4	Ⅱ 妻 ²	8 Ⅱ 2 妻 2	10 長 女 5	6 長 1 ·	のⅡ 14 妻 2 妻 2	の 29 2 2 2	$\overset{\mathcal{O}}{\overset{303}{2}}_{2}$	7 Ⅱ 1 妻125	のⅡ 1 1	Ⅱ 1	1 312	$ \begin{array}{c} \mathcal{O} \ \mathrm{I} \\ 9 \\ \mathcal{O} \ 2 \\ 4 \\ 1 \\ \mathcal{O} \end{array} $	Ⅱ 2 妻 1	タ 陽	伊 達	費 納
卓25 也逝 去	雄15 一近去	洋17 子逝 氏去	4·2 逝去	綾2 子逝去	美176 知子氏去	俊2 光逝 氏去	則2第 子逝 氏去	· 23命 逝去	· 26 逝去	幸6 子逝 氏去	妻 11・2 恵美子氏	105.6 逝去	長女 知香子氏	の: 7284 近 去	英4 子逝 氏去	会	郡 59	入 会
	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	<u></u> 北 子 市 当 男	」 函館 市	札幌市豊平 小泉 隆儀	函館市柳 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	函館市人 人	水上 北上 市 禾	黒沢 北幌市 空	今 函館 志	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	藤 原 市 町	祝 乙田 部 い	」 函館市 和	」 函館 市	」 函館 市 木	員	志村	員
(令	弁	別 4氏 の	住廣 吉町氏 17	豊平区月寒東2の1900年儀 氏 昭361	町 1氏 の	見 町氏	北斗市七重浜8丁	化幌市白石区菊水元町の 配隆 氏 一	「館市駒場町3の	市赤川1の	紀幌市南区澄川500歳 昭雄氏昭	i町元和60氏	电博田港町48	桔功 梗町氏 365	鍛実 2 の	訃 報	(敬称略 令 美	名 簿
令和2年10月20日現在	の昭 538 I 妻 ² ・	6昭 の28 30Ⅱ 妻 ² :	の昭 1837 I 2	10	2 昭 24 二女 次	4 の昭 635 I 事2	丁 日昭 1129 の I 2 2	元町4の28 1の3の1	の昭 1835 のI 301 2	27昭 の46 14 事2	$925 \\ 0 \\ 5 \\ 0 \\ 2 \\ 0 \\ 2 \\ 0 \\ 2 \\ 0 \\ 2 \\ 0 \\ 2 \\ 0 \\ 0$	昭 25 二 2	の昭 131 長女 ・	の昭 6推1 2	20昭 の53 22 妹2		和2年9月館	追 加
7 20 日現在	★ 1 ^余 入仁1 ³ 子 氏	- 9	·	10010妻 範子氏 あ 手 (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5)	2·8·5逝去	2・7・25逝 ま あつ子氏	2・7・1B 逝去	14 $^{-7}$	妻 辛子氏 (1)	妻 <u>久</u> 二子氏	6 妻 ミキ 手 ジ ジ ジ ジ ジ 当 ・ ら ・ ジ ジ 当 ・ ジ 二 ・ ら ・ ジ ン ジ 一 歩 ・ ジ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	2·6· 妻 6· 王 子 氏 子 氏	、粟澤珠実 氏 ・6・17 逝 夫	·6·2逝 	積谷満美氏 ・5・3 逝去		73日現在57	分

